

「サイエンスアクセス」スタート

サイエンスアクセス講演会も開催

水沢高校1年生のSSH学校設定科目「サイエンスアクセス」（以下SA）が後期からスタートしました。SAは社会の様々な問題・課題について、各グループでテーマを設定し各自で研究し、他と議論や意見交換をしながら解き明かしていくことを目的に実施しています。通常の高校で習う科目では、答のある問題に対して勉強することが常ですが、現代社会の中では唯一の答があることは皆無とっていいでしょう。SAは答のない問題に対して、研究・議論を通して自分たちの「未来」を思い描けるようにすることがねらいです。文化祭で各自が製作したポスターを基に今後グループで議論しながらまとめ、大学研修などの活動を取り入れながら1月のポスター発表会に向けて取り組んでいくことになります。特に昨年度はSAの活動をきっかけとした現在2年の有志が、東日本大震災の記憶の風化を防ごうと募金やキャンドルイベントを実施したことをマスコミにも取り上げられ注目されました。本年度もこのように、SAをきっかけとしたムーブメントが広がることを期待しています。



講師の岩手県立大学 樽松理樹 先生



講演の生徒の様子

9月20日に1年生を対象としたSA講演会を実施しました。講師は岩手県立大学ソフトウェア情報学部の樽松理樹先生で、「ソフトウェア開発技術の手法を日常で活用してみよう」というテーマで行いました。前期に履修した「社会で情報」の科目はソフトの活用が主でプログラミングについてはあまり触れていません。今回の講演は、プログラミングの考え方について学ぶ貴重な機会となりました。講演の中で先生は、「コンピュータは指示されたことしかしない、いわば”頑固な人”と同じで、それに指示を与えるのがプログラミングである。プログラミングを考えるために物事を図化して考えることが大切で、その考え方は日常の問題解決にも共通するものである。つまり、プログラミングの考え方は、何かの問題を解決することに有効な手段である」と教えてもらいました。

今回の講演会を通して学んだ、物事を図化して問題解決する手法を、今後のサイエンスアクセスの授業で活用しながら、それぞれの研究を進めてほしいと思います。